TRADITIONAL CRAFTS OF YAMANASHI

時を超えて受け継がれる匠の技





山梨県の風土と悠久の歴史のなかで生まれた国指定伝統的工芸品。匠の技と伝統に育まれた優れたものづくりを、脈々と受け継いでいます。



崇高な輝き。磨き上げられた造形美。

昇仙峡の奥地金峰山で水晶の原石が発見されたことが、甲府で の水晶細工の起源です。江戸時代の天保年間、鉄板の上に金 剛砂をまいて水晶を磨く方法を考案したのが水晶細工の始まり でした。水晶は硬度が高く、加工は非常に時間を要します。数 珠や帯留め、根付けなど加工品の幅を広げ、産地として確立し ていきましたが、昭和50年代のドルショックを境に高度な技術 を駆使した国内向けの美術品に昇華させ、今もなおその質を高 めています。



甲州印伝

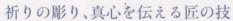
鹿革と漆が奏でる多彩な紋様

使い込むほど手に馴染み、愛着が増します。









四方を山に囲まれた山梨県 (甲州) は、古くから鹿革や漆を産出 山梨県の印章業は、御岳山系に良質で巨大な水晶鉱が発見・ 発掘されたことが起源です。江戸時代末期の「甲州買物独案 していたことから、甲州印伝が生まれ育つには格好の地であっ たとされ、江戸時代末期に、甲府城下を中心に生産が盛んにな 内」には、甲府市内に御印版を扱う版木師の存在を示す記載が りました。十返舎一九著「東海道中膝栗毛」に記されているよう あります。文字文化4000年の歴史の中、最も美しい篆書を中 に、当時は各地で製造され、江戸の粋人たちに広く愛好されて 心に、印章の文字のデザインから、字割り、字入れ、荒彫、仕上 いましたが、現在、製法は甲州印伝のみに限られています。漆 げ等すべての工法を、昔ながらの道具と技法を用いて手作業で 模様付けされた、柔らかく丈夫で軽い鹿の革で出来た袋物は、 行っています。









甲州雨畑硯

書家の心を魅了する漆黒の美



甲州大石紬織物 直心で織り上げた手作りの温かさ



時代のうねりの中で忘れられていた美しい紙







人々の幸福を見守り、今蘇る伝統の主





元禄3 (1690) 年、雨宮孫右衛門が身延山参 詣の途中、富士川支流の早川河原にて黒一色 の流石を拾い、これを硯にしたことが始まりと されています。以来、硯づくりの研究を重ね、 将軍一橋公に献上したことからその名が広く 知られるようになりました。中国硯にも勝る良 石として古来からその石質が高く評価され、 代々数多くの硯工を輩出し、現在までその高 い品質・技術が伝承され、つくりつづけられて います。

延喜15 (915) 年 「絹を朝廷に献上した」との 一文が最も古い郡内地域の織物についての記 述です。特徴は丈夫で軽く、柔らかく、そして 絹特有のすべりの良さ、何よりも堅牢で絹織物 と紬織物の両面の良さを併せ持つ、他の紬織 と異なった風合いを持っています。江戸時代 末期には租税として物納されたり、富士山を 崇拝する富士講の人々や行商人の手によって 広く売り出され、改良が重ねられ現在の大石 紬に至っています。

武田信玄の任により、「三椏 (みつまた)」を 主原料にした、平滑で光沢のある毛筆に適し た紙が誕生しました。また、戦後には画仙紙 を完成させ、全国に先駆けて販売し爆発的に 広まり、西嶋和紙は発展を遂げました。現在で も、作者が望む渇筆やニジミが思いのままに 表現できる手漉画仙紙や自然素材を取り入れ た和紙の照明、ブライダル用紙など紙の個性 を生かした新しい和紙の世界が広がります。



甲州武者のぼり/鯉のぼり

子どもの成長を願う勇敢な武者絵巻

天下泰平を目指す時代の翻った旗指物、吹流 しが、江戸時代後半に端午の節句の祝いのの ぼりとして立てられるようになったのが、武者 のぼりや鯉のぼりの起こりと伝えられていま す。富士川流域を中心に山梨県では染物が盛 んで、江戸時代から変わらぬ技法で100%綿 を利用し、下絵も当時からの物を使用していま す。国内産の原料で染め上げる染物は、富士 川流域の冷たい水で流され、独特の色合いに 染められます。



南アルプス市加賀美地区の瓦づくりの起源 は、この地域が御勅使河原扇状地の先端で、 粒子の細かい粘土層が露出していたこと、良 質の水が容易に得られたことなどが挙げられ ます。土練りやかけやぶり、磨き等の伝統技 法で作られ、その表情は災いを追い払う気迫 にあふれています。全て手作りのため、製品ご とに表情があり、鬼のもつ厳しさと能面のもつ 優しさがミックスされた鬼面瓦として人気を博 しています。

親子だるま

親の願いをだるまに託して、夢・愛・希望



千年の時を超えて育まれてきた伝統の紙



煌めきと温もりを持つ名十の技



富士勝山スズ竹工芸品

ほのかに香る繊細なスズ竹細工



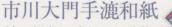
歓声のあがる一瞬をつくる

甲州花火



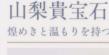


甲州だるまは約400年前、武田信玄の顔を模 して作り始めたと伝えられています。一般のだ るまとの相違点は、①白いだるまであること、 ②だるまの腹に子だるまがあること、③親の目 は神棚に上げた時拝む人の目と合うように出 来ていることなど。子どもの目は真ん中にあっ て、子どもの未来に、自分で目標を持ち真っ直 ぐに歩んでほしいと思う親心といわれていま す。全国でも珍しい親が子どもを思い制作さ れただるまです。





奈良時代末の記録に紙の産地として甲斐の名 が記されています。市川三郷町市川大門には 天台宗百坊といわれる程、多くの寺院があり、 漉家があったといわれ、この漉家から漉出さ れる紙が写経などに用いられていました。市川 の和紙は武田家の御用紙として、その保護の もと発展し、江戸時代には幕府の御用紙とし て、保護されていました。原料は「楮(こう ぞ)」「三椏(みつまた)」を使用し、美術紙、 画仙紙等に適しています。





水晶の原石の発見から水晶細工が盛んにな り、しだいに水晶玉や水晶の置物に加え、ブ ローチ用の水晶のカットも始められました。研 磨技術が大躍進を遂げ、アクセサリーなど 様々なものがつくられるようになりました。熟 練した職人の手により、原石を何通りもの工程 を経て、輝きある貴宝石に仕上げています。国 内最大の宝飾産地「山梨」の発展を支える原 動力であり、産業集積地ならではの優れた工 芸品です。



スズ竹は、富士山二合目付近に自生しているし なやかで香りが良いところが特徴とされる竹で す。細かい目で編んだザルは繊細でとてもしっ かりしており、実用品としてばかりではなく、イ ンテリアとしても好評を得ています。甲斐国志 にスズ細工の記述があり、それ以前より富士 山からスズ竹を取って、笊籬(いかき)を作っ ていたことがうかがえます。生活と身近な素材 が融合して生まれた美術品にも通じる工芸品 です。



甲州花火は武田信玄時代の烽火や江戸時 代の町衆花火から誕生し、発展しました。花 火大会の他に、祭礼行事の合図などとして音 だけの花火も多く打ち上げられています。現在 は伝統的技法に加え、花火玉が開いた際の 形・色の研究など様々な改良がなされていま す。甲州花火は「神明の花火」をはじめ全国 各地の花火大会で打ち上げられ、華々しく夜 空を彩っています。